

許 可 番 号	倫-760
研 究 課 題 名	2015 年出生児を対象としたハイリスク新生児医療全国調査
診 療 科	新生児科
研 究 責 任 者	寒竹 正人
資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者	日本小児科学会 新生児委員会委員長 日下 隆
研究の目的と方法	<p>日本小児科学会新生児委員会では、1990 年から 5 年ごとに超低出生体重児（出生体重 1,000g 未満）の死亡率の調査を実施してきました。これまでの調査では、いずれも日本で出生した超低出生体重児の 90%以上をカバーしており、本調査の結果は日本の妊産婦・新生児診療の水準を示す重要な指標として利用されています。また、超低出生体重児の分娩が予想される際に、ご家族に与えられる情報でもあります。これまでの調査の結果をみると、わが国の超低出生体重児の死亡率は調査のたびに改善しており、国際的にみても極めて治療成績が良いことが分かっています[1]。</p> <p>本調査の目的は、2015 年に出生した超低出生体重児の死亡率を明らかにするとともに、過去の調査と比較してどのように変化しているのかを明らかにすること、さらには死亡率に影響を及ぼす要因を検討することです。またわが国の周産期医療の特徴として、超低出生体重児の死亡率は諸外国と比べて著しく低い一方、未熟児網膜症や慢性肺疾患といった、早産児特有の合併症の頻度が高いことが分かっています。本調査では死亡率とともに、これらの合併症の発生頻度についても調査を行い、わが国における現状を把握、諸外国との国際比較を行う際のデータとして使用するとともに、今後のわが国の周産期医療の更なる発展につなげることを目的としています。</p> <p>方法は診療録を後方視的に検討し必要な情報を抽出します。</p>
利用、又は提供する 試料・情報の項目	<p>出生体重、在胎期間、性別、新生児搬送・母体搬送の有無、分娩形式、母体へのステロイド投与の有無、臨床的絨毛膜羊膜炎の有無、妊娠高血圧症候群の有無、児が入院した日齢、児の合併症（壊死性腸炎、新生児限局性消化管穿孔、慢性肺疾患、未熟児網膜症、嚢胞性脳室周囲白質軟化症、脳室内出血）、児の転帰（自宅退院、転院、死亡）、主たる死亡原因、退院時の体格、在宅医療の有無</p> <p>（氏名、生年月日、住所、電話番号など個人を特定可能</p>

	な情報は含まれません。)
研究対象者	2015年1月1日～2015年12月31日の間に出生し、生後24時間以内に順天堂大学医学部附属静岡病院新生児科に入院した、出生体重1000g未満の児を対象とします。
研究対象期間	承認日～2020年9月30日
利用する者の範囲	多施設共同研究 研究代表機関名：日本小児科学会事務局 代表研究責任者：新生児委員会委員長 日下 隆
個人情報の取扱いについて	使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。 研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。
お問い合わせ先	該当する研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。 順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児科 電話：055-948-3111(代表) [内線：7229] 研究責任者：寒竹 正人